平成25年10月22日

教育委員会教育改革推進担当

川崎市立商業高等学校全日制課程への普通科設置（案）について

平成29年度４月に、川崎市立商業高等学校全日制課程ビジネス教養科６学級を４学級とし、新たに普通科２学級を設置する。

１．設置する学科・学級数　　　普通科２学級（学年編成：ビジネス教養科４学級、普通科２学級）

２．設置時期　　　　　　　　　平成29年　４月（年次進行）

３．設置理由等

１）これまでの経緯

〇市立高等学校の再編の方針　　資料１－１　資料１－２

・平成19年７月の教育委員会で決定された「市立高等学校改革推進計画」の市立高等学校の再編の方針第１次計画で、「商業高等学校全日制課程では、全県的な普通科志向の高まりの中で商業科（商業科、情報処理科、国際ビジネス科）志願者数が減少傾向にある。このため学科の改編を考えていく必要がある。」とあり、平成22年度に商業科：３学級、情報処理科：２学級、国際ビジネス科：1学級を、ビジネス教養科：６学級に改編した。

・同計画において「川崎高等学校の中高一貫教育校への転換により、南部地域において高校進学時に選択できる普通科が減少することや普通科志向が高い状況から、普通科志望の生徒のニーズに応えるため、商業科の改編にともない普通科の設置も検討していきます。」と計画された。

２）公立高等学校入学者選抜における課題

①公立高等学校入学者選抜において市内の普通科志願者が多く、普通科志望のニーズが高い

・市内の県立、市立高校全日制普通科への進学を希望する中学生のうち、公立高等学校入学者選抜の結果合格できなかった志願者数は、平成21年度以降毎年約500名～600名（12～15学級分）となっている。そのうち、市立高校全日制普通科を志願したにもかかわらず合格できなかった市内中学生の数は、毎年約80名～150名（２～４学級分）となっている。　資料２、３

②川崎高校の中高一貫教育校開校にともなう普通科の募集規模

・現在、川崎高等学校全日制の募集規模は、普通科４学級、生活科学科１学級、福祉科１学級である。しかし川崎高等学校附属中学校の生徒が高校へ進学する平成29年度以降は、川崎高校普通科の入学定員160名のうち、120名分が附属中学校から進学することになるため、市内に住む中学生にとっては、高校の入学者選抜で選択できる学級数は実質的には1学級分となり、附属中学校以外の中学生にとっては普通科選択の枠が狭まることになる。

３）設置理由

①普通科志向は全県的にも依然として高い状況にあり、特色ある教育を行っている市立高校普通科への志願者数も多い状況にあることから、市内中学生の普通科進学というニーズに応えられるような進路保障を図る必要がある。そのため「市立高等学校改革推進計画」の市立高等学校の再編の方針で示された通り、川崎市立商業高等学校全日制課程に普通科を設置する。

②設置年度については、川崎高等学校附属中学校の生徒の川崎高校への進学が平成29年度であることから、平成29年度の設置とする。なお普通科の募集は年次進行とし、商業高校は平成31年度において、全校でビジネス教養科12学級、普通科6学級規模の学校となる。

川崎市立商業高等学校全日制課程の学級数推移

学科	学年	H28	H29	H30	H31
ビジネス教養科（商業科）	3年	6	6	6	4
	2年	6	6	4	4
	1年	6	4	4	4
普通科	3年	＊＊＊	＊＊＊	＊＊＊	2
	2年	＊＊＊	＊＊＊	2	2
	1年	＊＊＊	2	2	2
合計	3年	6	6	6	6
	2年	6	6	6	6
	1年	6	6	6	6
全学年クラス数		18	18	18	18

参考資料

○公立中学校卒業予定者の動向　参考資料１　参考資料２

・平成25年度の県内公立中学校卒業予定者は、70,562人と13年ぶりに7万人台となり、前年比1,655人増となっている。

・平成27年度以降については、神奈川県全体では中学校卒業予定者は減少するものの、69,000人台の高止まりの状況となる。

・市内における公立中学校卒業予定者は、平成26年度以降、高止まりの傾向にあり、平成30年度の9,751人がピークになると予測されている。

資料1-1

市立高等学校改革推進計画（平成１９年７月）　抜粋

イ　定時制課程

昼間部・夜間部の二部制（普通科）とします。また、現在の全日制課程・定時制課程が教室等を共用していることで受ける制約（例えば全日制課程の部活動と定時制課程の授業の競合）の解消に向けて、定時制課程専用教室を設けることとします。

② 商業高等学校

ア　全日制課程

現在設置されているそれぞれの学科（商業科、情報処理科、国際ビジネス科）においては全県的な普通科志向の高まりの中で志願者数が減少傾向にあります。このため学科の改編等について考えていく必要があります。

例えば、新たな商業系の学科に統合し、１年次で商業科の必修科目を学び、基礎学力を身に付け、２年次からコースを選択し、コース別の必修科目や選択科目を通して興味ある分野を多く学ぶことで生徒の学習ニーズや希望進路に沿った学習を深めていく方法等が考えられます。

また、川崎高等学校の中高一貫教育校への転換により、南部地域において高校進学時に選択できる普通科が減少することや普通科志向が高い状況から、普通科志望の生徒のニーズに応えるため、商業科の改編に伴い普通科の設置も検討していきます。

イ　定時制課程

川崎高等学校に二部制の定時制課程を設置することに伴い廃止します。

③ 川崎総合科学高等学校

ア　全日制課程

従来どおりとします。

イ　定時制課程

商業高等学校の定時制課程の廃止に伴い、新たに商業科を設置します。

現在設置されている電気/電子科及び機械科については、志願者数が減少傾向にあることから、川崎市の産業界に必要とされる人材を育成できるような魅力ある工業系学科に改編することを検討します。

統合に当たっては、以下の項目を考慮しています。

- 現在の川崎総合科学高等学校の施設設備を新たな魅力ある工業系学科で活用することができる。また、商業科に必要なシステムも、川崎総合科学高等学校の施設設備での対応が可能である。
- 商業高等学校及び川崎総合科学高等学校はいずれも幸区内にあり、２校間の距離はおよそ１．５キロメートルである。
- 定時制課程に商業科と魅力ある工業系学科を設置することにより、新たな特色づくりが可能となる。

資料1-2

市立高等学校の再編の方針

現在 学校名	現在 課程	【川崎高校の改築に併せた】第１次計画 学校名	第１次計画 課程	【高津高校の改築に併せた】第２次計画 学校名	第２次計画 課程
川崎高校	全日制（学年制）普通科(4)・生活科学科(1)・福祉科(1)	（転換）併設型中高一貫校 ・学校改築 ・全日制課程には専門学科併置 ・定時制課程には二部制を導入	全日制（学年制）中学(3)・高校(4) 生活科学科(1)・福祉科(1)		
	定時制（学年制）普通科４年制(2)		定時制（学年制）普通科４年制(4)		
商業高校	全日制（学年制）商業科(3)・情報処理科(2)・国際ビジネス科(1)	商業高校 ・全日制課程は学科改編 ・定時制課程は廃止	全日制（学年制）商業科(4)・普通科(2)		
	定時制（学年制）普通科４年制(1)・商業科(1)	（廃止）			
川崎総合科学高校	全日制（学年制）情報工学科・総合電気科・電子機械科・建設工学科・デザイン科・科学科 各(1)	川崎総合科学高校 ・定時制課程は工業系学科の学科改編及び商業科統合	全日制　変更なし		
	定時制（学年制）電気/電子科(1)・機械科(1)		定時制（学年制）工業系学科(1)・商業科(1)		
橘高校	全日制（学年制）普通科(4)・国際科(1)・スポーツ科(1)	橘高校	全日制　変更なし	橘高校 ・定時制課程は廃止	全日制　変更なし
	定時制（学年制）普通科３年制(1)・普通科４年制(1)		定時制（学年制）３年制廃止 普通科4年制(2)	（廃止）	
高津高校	全日制（学年制）普通科(6)			高津高校 ・学校改築 ・定時制課程は二部制を導入	全日制　普通科を基本として検討
	定時制（学年制）普通科４年制(3)				定時制（学年制）普通科(5)

（　）内はクラス数

【例】（商業高校）
商業コース、情報処理コース、国際ビジネスコース

【例】（川崎総合科学高校）
●メカトロニクス科
：電子機械に関する基礎的な知識と技術を習得
●システム工学科
：工業の基本的技術・システム技術の習得
●ものづくり工学科
：機械・電気の基礎知識を習得。地域産業と連携してものづくりの精神を深める。

資料2

市内の県立･市立高校全日制　普通科　合格発表時の受検者数と合格者数（H21～H25）

高校改革

年度	前期･後期	学科	募集定員	募集人員	受検者数	合格者数	受検者数ー合格者数
H21	前期	普通科	3,101	1,493	3,392	1,507	1,885
	後期	普通科		1,608	2,241	1,619	622
H22	前期	普通科	3,380	1,600	3,703	1,622	2,081
	後期	普通科		1,778	2,392	1,810	582
H23	前期	普通科	3,291	1,558	3,543	1,581	1,962
	後期	普通科		1,733	2,424	1,747	677
H24	前期	普通科	3,439	1,629	3,543	1,505	2,038
	後期	普通科		1,810	2,399	1,829	570
H25	共通選抜	普通科	3,629	3,629	4,099	3,596	503

＊県立川崎高等学校　単位制普通科を含む

資料3

川崎市立高校全日制　普通科　合格発表時の受検者数と合格者数　（H21～25）

高校改革

年度	前期･後期	学科	募集定員	募集人員	受検者数	合格者数	受検者数ー合格者数
H21	前期	普通科	551	274	739	275	464
	後期	普通科		277	428	280	148
H22	前期	普通科	591	294	715	294	421
	後期	普通科		297	405	300	105
H23	前期	普通科	591	294	719	294	425
	後期	普通科		297	433	299	134
H24	前期	普通科	591	294	684	294	390
	後期	普通科		297	390	299	91
H25	共通選抜	普通科	594	594	671	587	84

参考資料1

神奈川県公立高等学校入学者選抜　普通科　前期･後期　合格の状況　（H.21～25）　高校改革

年度	前期･後期	学科	募集定員	募集人員	受検者数	合格者数	受検者数ー合格者数
H21	前期	普通科	26,251	11,994	25,566	12,086	13,480
	後期	普通科		14,257	19,841	14,440	5,401
H22	前期	普通科	27,215	12,330	26,726	12,463	14,263
	後期	普通科		14,885	21,277	15,078	6,199
H23	前期	普通科	26,210	11,856	25,133	11,986	13,147
	後期	普通科		14,354	20,407	14,537	5,870
H24	前期	普通科	27,304	12,270	24,853	12,391	12,462
	後期	普通科		15,034	21,002	15,186	5,816
H25	共通選抜	普通科	28,877	28,877	33,590	28,848	4,742

＊受検者数：前期選抜では面接者数、　後期選抜では学力検査受検者数

参考資料2

市内の県立高校全日制　普通科　合格発表時の受検者数と合格者数　（H21～25）　高校改革

年度	前期･後期	学科	募集定員	募集人員	受検者数	合格者数	受検者数ー合格者数
H21	前期	普通科	2,550	1,219	2,653	1,232	1,421
	後期	普通科		1,331	1,813	1,339	474
H22	前期	普通科	2,789	1,306	2,988	1,328	1,660
	後期	普通科		1,481	1,987	1,510	477
H23	前期	普通科	2,700	1,264	2,824	1,287	1,537
	後期	普通科		1,436	1,991	1,448	543
H24	前期	普通科	2,848	1,335	2,859	1,211	1,648
	後期	普通科		1,513	2,009	1,530	479
H25	共通選抜	普通科	3,035	3,035	3,428	3,009	419

＊県立川崎高等学校　単位制普通科を含む

＊受検者数：前期選抜では面接者数、　後期選抜では学力検査受検者数